

# セルビア

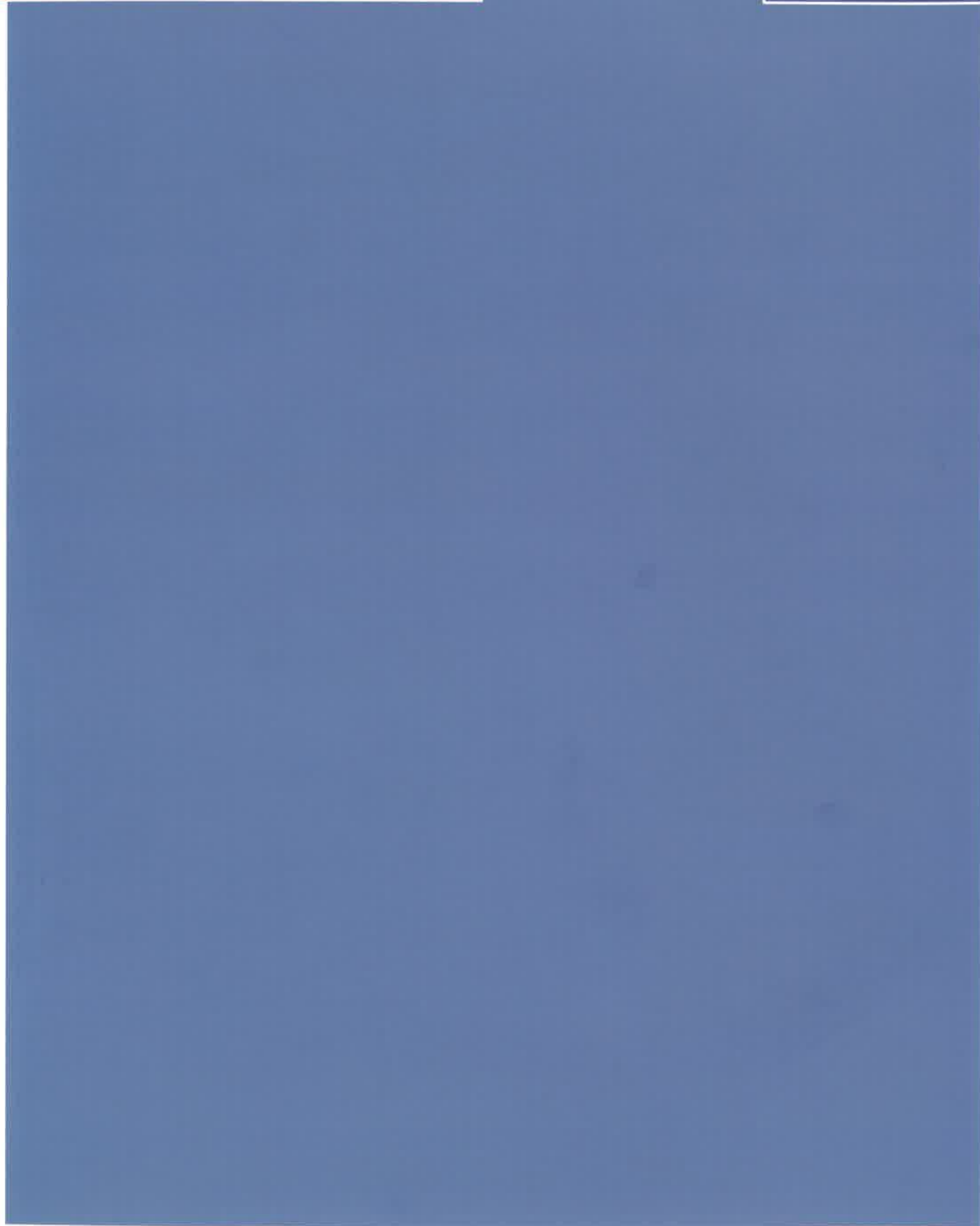
心のリズムで生きる



セルビア政府観光局  
NATIONAL TOURISM  
ORGANISATION  
of SERBIA

セルビア

jp.serbia.travel



# セルビア

心のリズムで生きる



セルビア政府観光局  
NATIONAL TOURISM  
ORGANISATION  
of SERBIA

セルビア

jp.serbia.travel





凡例

- 国境
- 州境
- 市町村
- 河川・湖沼
- 山
- 高速道路
- 国道
- 地方道
- 空港
- 先史時代遺跡
- ローマ遺跡
- 修道院
- 城跡
- 温泉・鉱泉
- 国立公園
- 視光鉄道シャルガンエイト
- UNESCO世界遺産



心の鼓動

それは私たちが生まれる前に最初に聞く音、生命、エネルギー、興奮とくつろぎのリズム。さあ、心豊かに、セルビアの鼓動に耳を傾けよう。

セルビアって、どこ？

セルビアはヨーロッパの東南、ドナウ川流域のバルカン地域に位置しています。ヨーロッパとアジア、中東と地中海を空路、河川、陸路で結ぶ国です。



- |                   |    |                        |    |
|-------------------|----|------------------------|----|
| セルビアへようこそ         | 2  | セルビアの白い屋根              | 20 |
| ベオグラード、セルビアの首都    | 4  | レトロな鉄道、懐かしき思い出         | 21 |
| ベオグラード、その近くには     | 6  | アグリ・ツーリズム、違った視点からのセルビア | 22 |
| ボイボディナ地方、ヨーロッパの縮図 | 8  | セルビアの温泉地、健康の泉          | 23 |
| ニーシュ、東の門、西の門      | 10 | 伝統料理、セルビア人の心           | 24 |
| シュマディア地方、セルビアの中心  | 11 | ワイン、セルビアの味と香り          | 26 |
| 文化の道、歴史の旅         | 12 | 想像力の限界へ                | 27 |
| 帝国の遺産、ローマ時代       | 13 | 会議観光、その他会議観光のお勧めスポット   | 28 |
| 修道院、中世精神生活の支え     | 14 | みんなが楽しめる               | 30 |
| ドナウ川、美しく青く        | 16 | お役立ち情報                 | 32 |
| アクティブ体験、自然再発見     | 18 |                        |    |





# セルビアへようこそ

セルビア



ナバク・ジョコビッチ



発明家ニコラ・テスラ



ネマニッチ王朝系図

## セルビアの大きさは?

2011年の国勢調査によると、セルビアの人口は712万666人で、領土面積88,509平方キロは北海道と四国をあわせたほどの大きさです。人口は世界100位、領土は115位で、すぐれた科学者やスポーツ選手が世界の注目を集めています。

## セルビアの歴史は?

セルビアには、先史時代の遺跡や古代の集落跡がたくさんあります。7世紀のフランク王国の史料にソルビア人についての記述があり、10世紀には、ビザンチン皇帝コンスタンティノス七世ポルフィロゲネトスの著作に、セルビア人が登場しています。中世セルビア王国の成立は1217年で、ネマニッチ王朝歴代の王のもと、150年にわたって栄えました。始祖ステファン・ネマニャ大族長の息子ラストコは、セルビア正教会の初代大主教となり、聖サバの名で今日も国民の敬愛を集めています。近代になって、セルビアは、1878年のベルリン会議で独立が国際的に承認されました。第一次世界大戦終結後、2006年まではユーゴスラビアの一部でした。現在は、EU加盟の候補国になっています。



jp.serbia.travel

## セルビアはどんな国?

古くて新しい、伝統的で異国情緒あふれ、山が多い南部と北部の大平原が対照的な一面を見せ、おだやかでありつつ冒険心を掻き立てる国です。変化に富んだ歴史を通じて、セルビアは形を変え、中心を移し、あるときは大きくなり、あるときは小さくなくなったりしました。それでは、様々な美しい自然と、歴史価値のある文化遺産をご紹介します。

セルビアは、伝統文化に、モダンな文化が混ざり合い、それが建築様式や美術、生活や料理などに明確に反映されています。セルビアの首都ベオグラードをはじめ活気にあふれる都市部と地方の心落ち着く静けさとの良いコントラストを見せています。また、手付かずの自然で溢れる地方の田園風景は、たくさんの人たちを魅了してやみません。







# ベオグラード

～セルビアの首都～

ベオグラード

「朝、ベオグラードで目覚めた者は幸せだ。それだけでその日は充たされる。もう十分、やり遂げたと考えていい。それ以上を求めるのが不可能なほどだ。」これはセルビアの詩人ドゥシャン・ラドビッチの言葉です。もしあなたベオグラードで朝を迎えられたら、その日のスタートは上々！ただ街に出るだけで、かけがえのない体験をしたような満足感が得られるでしょう。

ベオグラードは、ヨーロッパでも有数の歴史を誇る町です。紀元前4800年にはすでに人が住み始め、紀元前3世紀には、ケルト人が都市を築いたと言われています。それはやがてローマ帝国の都市のひとつとなり、シンギドゥヌムと呼ばれます。白い町を意味するスラブ語のベリグラードが初めて史料に出てくるのは878年で、最初にセルビアの首都となるのは、1405年のことです。

ベオグラードの現在の人口は約160万人で、バルカン地域では最大です。おだやかな大陸性の気候で四季があります。秋のミハエル祭の前後に、日本の小春日和に似た温かい日が続くことがあり、「ミハエルの夏」と呼ばれています。

共和国広場からミハイロ公通りを通過して、コサンチッチ小路まで広い歩行者天国で、ベオグラードの中心街となっています。オペラなどが上演される国立劇場、国立博物館、セルビア科学芸術アカデミーをはじめとする文化施設や画廊、骨董店が集まり、レストランもたくさんあります。

ミハイロ公通りの先は、有名なカレメグダン城址公園があります。同公園は、野外博物館といった趣きで、ロマンチックなルジツァ教会、聖ペトカ教会、自然博物館、軍事博物館、そしてベオグラードのシンボル、イバン・メシトロビッチ作「勝利者の像」などがあります。城跡の高台からは、サバ川とドナウ川の合流地点や川の向かいにある新市街ノビ・ベオグラード、ドナウ川に浮かぶ大戦争島などが一望できます。

スカダルリア通りは、ベオグラードの中心にあり、その昔、ボヘミアンな画家や詩人のたまり場として栄えました。昔ながらの石畳に、伝統的なレストランが軒を連ねています。一方、近くのストラヒニッチ・バン通りは、これとは違った趣きで、モダンなレストランやカフェが集まり、違った魅力も同時に楽しめます。



共和国広場

ミラン王通りは、テラジエ広場とスラビア広場を結ぶ大通りです。スラビア広場のすぐ近くがブラチャルの丘で、壮麗な聖サバ教会があります。聖サバはセルビア正教会の初代大主教です。教育の神様としても崇められていて、教会の右手には国立図書館もあります。セルビア近代史に関心のある方々には、ユーゴスラビア歴史博物館と、故チトー大統領の墓所「花の家」がお勧めです。ヨシップ・ブロズ・チトーは、1953年から1980年に没するまでユーゴスラビアの大統領でした。

ベオグラード王宮の場所は、二か所に分かれています。ひとつは市内にある旧王宮と新王宮で、現在は市議会と大統領府として使われています。もうひとつは山の手デディニェ地区にある王宮と白亜宮です。もちろん、どちらも見学できます。



セルビア王宮  
[www.royalfamily.org](http://www.royalfamily.org)



聖サバ教会



セルビア近代史に関心のある方々には、ユーゴスラビア歴史博物館と、故チトー大統領の墓所「花の家」がお勧めです。ヨシップ・ブロズ・チトーは、1953年から1980年に没するまでユーゴスラビアの大統領でした。

サバ川の右岸には、ノビ・ベオグラード区の新市街が広がっています。観光で疲れた際は、大型ショッピング・モールで、カフェやお買い物でもいかがでしょうか。もう少し行くと、ゼムンという地区があります。今はベオグラードの区のひとつですが、昔は別の町でした。ドナウ川の岸边には、オシャレなレストランが並んでいます。

ベオグラードの緑地公園といえば、タシュマイダン公園とトプチデル公園です。歴史文化的にも重要な公園となっています。アダ・ツィガンリアはサバ川の中州で、人工的なビーチやスポーツ施設などがあるレクリエーションの場で、そのビーチは「ベオグラード海」の愛称で親しまれ、夏は連日多くの人で賑わっています。

ベオグラード市観光局  
[www.tob.rs](http://www.tob.rs)





# ベオグラード

～その近くには～

ベオグラード周辺



スメデレボ城跡

ベオグラードの近郊には、魅力ある観光スポットがいくつもあります。そのひとつがアバラの丘です。頂上には、第一次世界大戦後に建てられた「無名戦士の墓」があります。すぐ近くには高さ204メートルのテレビ塔が立ち、屋上の回転式レストランや展望フロアからは、ベオグラードや周辺の町が一望できます。

パンチェボはタミシュ川のほとりの工業が盛んな町ですが、観光ではカーニバルの町として知られています。このあたりでタミシュ川がドナウ川に合流し、河川には珍しい2つの灯台が建っています。そこから北へ向かうと、スロバキア系住民の村、コバチツァがあります。民族色豊かなナイーブアート（民衆芸術）の村として、世界的にも有名です。

パンチェボから、豊かなぶどう畑に囲まれたブルシャツの町へ行く途中に、デリブラツカ・ペシチャラという場所があります。ヨーロッパでもまれな砂原が広がり、珍しい植生で知られています。

ベオグラードからドナウ川に沿って14キロ下ると、ビンチャ遺跡があります。その一つのパロ・ブルドという遺跡では、新石器時代の集落が発見され、竪穴住居跡をはじめ、貴重な出土品も多く発掘されています。

ザサビツァ自然保護区は、ドリナ川とサバ川に挟まれた地域にあり、家族連れの小旅行に最適です。動植物の種類が非常に豊富で、天然記念物に指定されている珍種も多く、自然教室の場所としては最適ではないでしょうか。



6 | 7

ベオグラードからドナウ川に沿って46キロ下ると、スメデレボという町があります。河畔にそびえる城跡は町のシンボルで、中世セルビアの城塞建築としては最大級のもので、スメデレボは、1459年にオスマン・トルコ帝国の手に落ちるまで、中世セルビア最後の首都でした。

ポジャレバツ市は、ベオグラードから東へ車で小一時間の場所であり、ホモリエ地方への道とジェルダップ峡谷への道の分岐点にあたります。1895年に建てられた市立博物館には、近くのローマ帝国時代の都市遺跡ビミナツィウムからの出土品のコレクションが実に見事です。ビミナツィウムの発掘作業は現在も続けられており、見学者は発掘チームの専門家の作業に参加することもできます。ポジャレバツ市には、有名な女流画家ミレーナ・パプロビッチ・バリーリの生家があり、現在は美術館として彼女の作品が展示されています。毎年そのリュビチェボ牧場で開催される馬術競技大会も有名です。

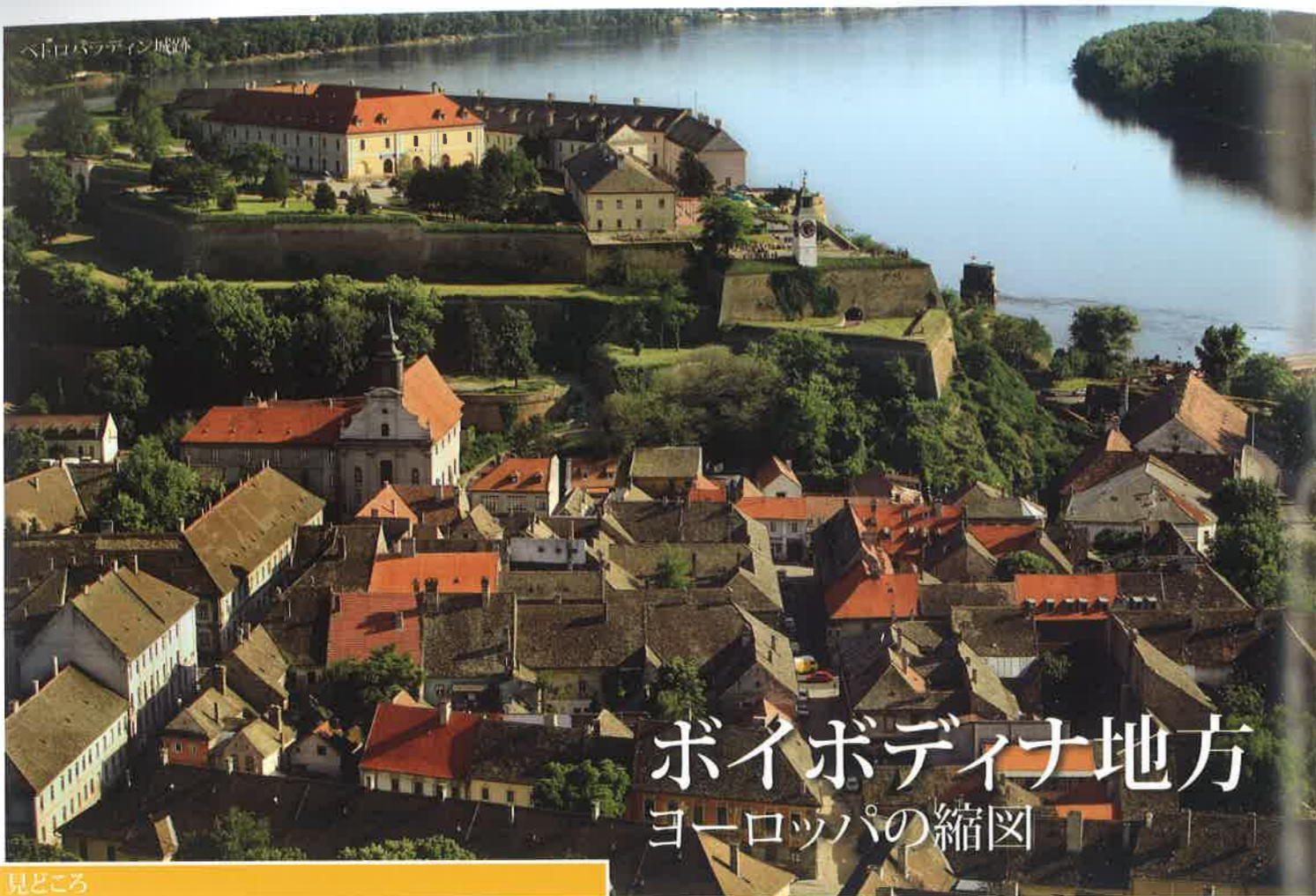
ベオグラードの南、100キロほどのところにトボラという町があり、町はずれのオペレナツ丘の頂上にはセルビア王家の霊廟、聖ジョルジュ教会が建っています。白大理石の建物で、内壁には、とても美しいモザイクアートが飾られています。あたりには王家のブドウ園、博物館、ペタル・カラジョルジェビッチ一世の生家、王の離宮、王妃の離宮、王家の始祖カラジョルジェの教会などがあります。

オペレナツの聖ジョルジュ教会  
[www.mgb.org.rs](http://www.mgb.org.rs)  
 ベオグラード市立博物館  
[www.zasavica.org.rs](http://www.zasavica.org.rs)  
 ザサビツァ自然保護区  
[www.oplenac.rs](http://www.oplenac.rs)

マーティン・ヨナス作、ナイーブアート







ペトロバラディン城跡

# ボイボディナ地方 ヨーロッパの縮図

## 見どころ

サバ川とドナウ川の北に広がるボイボディナ地方は、民族が多様な場所です。セルビア人のほかに、ハンガリー人、スロバキア人、チェコ人、ルーマニア人、ルテニア人、クロアチア人、ブニェバツツ人、ロマン人、モンテネグロ人、ドイツ人、ウクライナ人、マケドニア人などが住んでいます。ボイボディナとはボイボダ(公)領という意味で、第一次世界大戦の終わりまでオーストリア・ハンガリー帝国の一部でした。その歴史的影響が建築や美術、料理などに見ることができます。

ドナウ川の左岸にあるノビ・サド市は、ボイボディナの行政、文化、政治の中心です。18世紀にできた新しい町ですが、19世紀にはセルビア人の文化、教育の中心地となり、「セルビアのアテネ」と呼ばれるようになりました。現在は人口約35万人のセルビア第二の都市として、見本市、スポーツ大会、演劇祭など、国際的な行事も盛んです。市の中心街では、19世紀末の市庁舎やカトリック大聖堂、セルビア正教の主教座の教会、ユダヤ教のシナゴークなど、多様な文化が反映された建築様式を見ることができます。

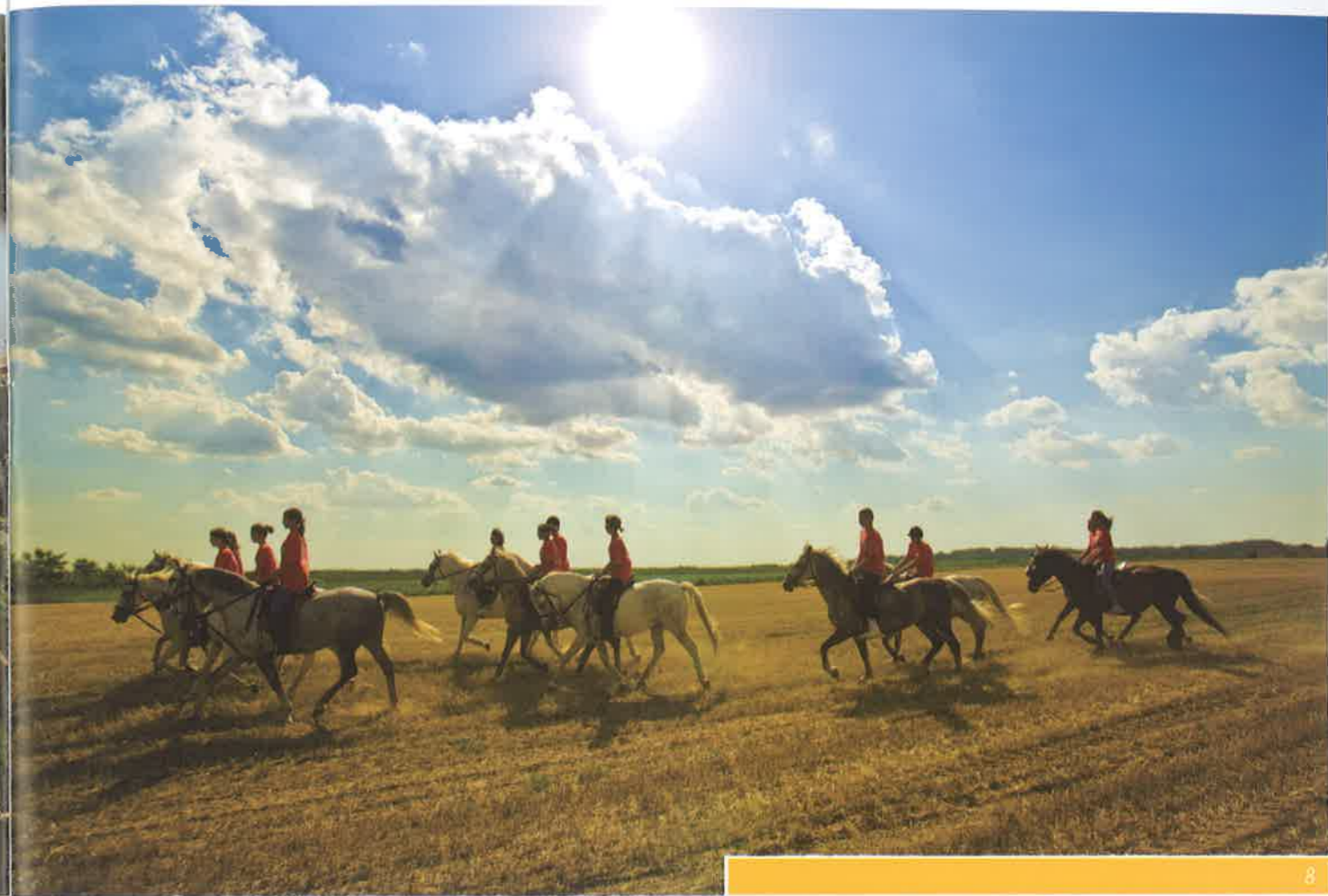
ノビ・サド市の対岸の崖の上には、ペトロバラディン城がそびえており、「ドナウのジブラルタル」とも呼ばれています。その歴史はローマ帝国時代にまでさかのぼりますが、現在の形になったのは、オーストリア帝国時代の17世紀から18世紀にかけてです。その時代の軍関連宿舎は現在、ホテル、レストラン、ノビ・サド市立博物館、芸術アカデミー、天文台、アトリエなどとして再利用されています。また、毎年7月には、EXITロッ

ク・フェスティバルという、世界トップクラスのミュージシャンたちを迎えた野外コンサートが開催されます。

ノビ・サド市の近くには、ドナウ川流域やフルシカ・ゴラ国立公園のように、ハイキングやサイクリング、セーリング、バードウォッチングなどの楽しめる観光スポットがたくさんあります。フルシカ・ゴラ国立公園は、全長80キロの丘陵地帯です。その日当たりのよい斜面ではローマ帝国時代からブドウ栽培が盛んで、ワインの産地として有名です。15世紀から18世紀に建てられたセルビア正教会の修道院が今なお数多くあり、各修道院で作られている蜂蜜やワインを巡ってはいかがでしょう。

ボイボディナ地方の北部には、いかにも中央ヨーロッパらしい雰囲気とアールヌーボー建築で知られる町、スポティツァがあります。そのほかにもズレニャニン、ソンボル、スレムスカ・ミトロビツァ、ルマ、スレムスキ・カルロブツィなど、魅力的な町がいくつもあります。

- ボイボディナ地方観光局  
[www.vojvodinaonline.com](http://www.vojvodinaonline.com)
- ノビ・サド市観光局  
[www.novisad.travel](http://www.novisad.travel)
- スポティツァ市観光局  
[www.visitsubotica.rs](http://www.visitsubotica.rs)
- フルシカ・ゴラ国立公園  
[www.npfruskagora.co.rs](http://www.npfruskagora.co.rs)



グルメにとって魅力的なのは、なんといってもノビ・サド市近くの「サラシュ」と呼ばれる農場です。ロマンチックな伝統生活が感じられ、泊まることのできるサラシュもたくさんあります。



スポティツァ市庁舎





# ニーシュ

東の門、西の門

見どころ



ニーシュは、セルビアの東南地方最大の都市です。古くはケルト語でナイス、ギリシャ語ではナイススと呼ばれていました。ちなみにローマ帝国時代の名はナイススで、コンスタンティヌス大帝とコンスタンティウス三世の生地として知られています。ヨーロッパと中東、黒海とアドリア海を結ぶ戦略的な要衝として、「東の門、西の門」とも呼ばれています。

この町をめぐるには、過去に様々な民族が争ってきた歴史があります。ダルダニア、トラキア、イリュリア、ケルト、ローマ、フン、アパール、ビザンチン、セルビア、ブルガリア、トルコ、ハンガリー、オーストリア…。このようなことから、ニーシュの文化遺産には、建築や食事、美術や音楽から市民の生活スタイルまで、豊かな多様性が感じられます。

コンスタンティヌス大帝の時代、313年にミラノの勅令が發布され、キリスト教と他の宗教との平等が宣言されました。キリスト教はその後、ローマ帝国の公式の宗教となり、ナイススにも主教管区が置かれました。4世紀に建てられたバシリカは、世界で最も古いキリスト教建築のひとつです。コンスタンティヌスは、自らの生地には離宮を建て、メディアナと名付けました。皇帝の離宮の周りには、貴族たちが競って邸宅を建て、メディアナは華やかな別荘地になりました。しかし、4世紀末にはゴート族の襲撃で破壊されてしまいました。現在は考古学上とても重要な遺跡として位置づけられています。

ニーシュ市の名所のひとつにチェレクーラと呼ばれる首塚があります。オスマン・トルコ帝国からの解放をめざして戦われた第一次セルビア蜂起のあと、1809年、オスマン・トルコ帝国は、チェガルの戦いでセルビアの戦士942人の首級を挙げ、それらを埋め込んだ塔を建てました。



今日のニーシュ市は文化や政治の中心地で、大学都市でもあり、映画祭や音楽祭、スポーツ大会など、数々のイベントでも知られています。とくに、恒例の国際ジャズ・フェスティバル「ニーシュビル」には、世界各国からジャズミュージシャンが参加しています。

ニーシュ市観光局  
[www.visitnis.com](http://www.visitnis.com)

# シュマディア地方

セルビアの中心



見どころ

シュマディア地方はセルビアの中部地方に位置し、なだらかな丘陵地帯に広がる落葉樹林が美しく、同地方の名前は「森の国」という意味があります。シュマディア地方の中心都市はクラグエバツの町です。かつてこの地方に棲息したクラグイというハゲワシに因んだ名ですが、何度も破壊され、そのたびに灰燼のなかから蘇ったという歴史があることから、ハゲワシよりも不死鳥に似ているといわれています。

第二次セルビア蜂起の結果、オスマン・トルコ帝国から解放され、1818年に自治公国として独立すると、蜂起の指導者ミロシュ・オブレノビッチ公は、このクラグエバツの町をセルビアの首都に選びました。近代セルビアにふさわしい新しい町を国の中枢として築こうとしたのです。

クラグエバツ市観光局  
[www.gtokg.org.rs](http://www.gtokg.org.rs)



そのため、クラグエバツは初物尽くしの町になりました。この町が首都だったのは1841年までですが、その間に、1833年開校のセルビア初の中等学校をはじめ、劇場や裁判所、市場、新聞社、ベオグラード大学の前身となる高等学校リセー、国会、兵器廠、サッカークラブなどが創設されました。セルビア最初の憲法が書かれたのもこの町です。

クラグエバツ町の見どころとしては、国立博物館、市庁舎、砲兵工廠跡、第二次大戦でのドイツ軍による惨禍を後世に残すために建てられた10月21日平和記念資料館とシュマリツェ慰霊公園などがあります。

近くのアランジェロバツ、ゴルニ・ミラノバツ、ヤゴディナなどの町も、歴史的観光スポットとしては非常に興味深く、シュマディア地方に来られる際は、これらの町にも是非足を運んでみてはいかがでしょうか。





レベンスキ・ビール遺跡

## 文化の道 歴史の旅

文化



スタルチェボ遺跡の出土品

今日のセルビアには、たくさんの古代遺跡があり、発掘された貴重な出土品は全国各地の遺跡公園や博物館に展示されています。

スタルチェボ文化とは、新石器時代初頭のパンチェボという町の近くにあるスタルチェボ村にある遺跡に因んで名付けられました。場所は、ドナウ川の左岸に位置し、1939年に素焼きや幾何学文様の土器、土偶、石器、骨角器などが発見されました。スタルチェボ文化はその後ピンチャ文化に継承されていきます。

セルビアの先史時代の遺跡のなかで、最も重要なのがピンチャ遺跡です。世界的にみても技術的に最も進んだ農耕文化といわれており、ヨーロッパ新石器文化の代表的な例で、紀元前5500年から4000年まで続きました。出土品としては、石器、骨角器、石製の武器などの貴重なコレクションのほか、土器や祭祀用の容器、貴金属の装飾品なども見つかり、土偶のなかには「ピンチャのビーナス」として知られる傑作もあります。

レベンスキ・ビール遺跡  
www.lepenski-vir.rs

レベンスキ・ビールは中石器から新石器時代の集落跡です。ベオグラードの南160キロ地点のドナウ川右岸周辺で1965年に発見されました。レベンスキ・ビール文化は約9000年前のもので、約2000年にわたって人が暮らしていたと言われています。家は、台形の形をしており、なかには囲炉裏があり、小さな祭壇も設け、そこには神を表すとみられる魚面石像を祀っていました。



ビミナツィウム、ローマ時代の指輪



## 帝国の遺産 ローマ時代

今日のセルビアには、16人のローマ皇帝の生地があります。シルミウム(現スレムスカ・ミトロビツァ)、シンギドゥヌム(ベオグラード)、ビミナツィウム(コストラツツ)、トラヤヌスの石碑(ジェルダップ峡谷)、ディアナ城跡(クラドボ)、フェリックス・ロムリアーナ(ザエチャル)、メディアナ(ニーシュ)、ユスティニアナ・ブリマ(レバネ)などの遺跡に、かつての帝国の栄光をうかがい知ることができます。

シルミウムとはローマ帝国の四分統治時代の古代都市のひとつです。商業・交通の要衝として、3世紀に全盛を迎えました。シルミウム遺跡は、その大部分がスレムスカ・ミトロビツァ市の地中にそのままの形で残っており現在は一部しか見ることができませんが、それだけでもこのローマ帝国都市の繁栄ぶりが想像できます。

ビミナツィウム 遺跡公園  
www.viminacium.org.rs

ローマ人は建築にすぐれていたと言われています。それは、現在のクラドボ市の下流にある、ドナウ川に架かる石橋の遺跡からも伺えます。有名なトラヤヌスの石碑は、トラヤヌス帝によるローマ街道の完成を記念して建てられたもので、船上から見るすることができます。



ガムジグラード、ガレリウス帝宮殿跡

WORLD HERITAGE

12 | 13

ヨビニウス帝の生地、シンギドゥヌムの歴史は2世紀までさかのぼります。都市計画はローマの伝統に従って、公開広場、上下水道、浴場が配置されていました。同地は要衝であったため、何世紀もの間、いろいろな帝国が覇権を争うことになりました。

ビミナツィウムは紀元1世紀にローマ軍の宿営地として建設され、都市として発展しました。ハドリアヌス帝の時代、2世紀には自治都市となり、後には、独自の貨幣を铸造する権利や「コロニア」としてローマ市民の資格も与えられています。同地は、ローマ皇帝や教会の高位聖職者の滞在地でもありました。周辺では、円形劇場や宮殿跡、道路や上下水道施設、浴場、墓地などの遺跡が見られるとともに、近くのマンモス遺跡公園も一見の価値があります。

フェリックス・ロムリアーナとは3世紀末から4世紀初にかけて建設された宮殿で、ガムジグラードとも呼ばれています。ガレリウス帝が自分の生地建てた離宮で、現在のザエチャル市に近い美しい谷に位置しています。この離宮は、ガレリウス帝が自身の母の名前を取って、フェリックス・ロムリアーナ、「幸せなロムラ」と名付けました。同遺跡は、この時代のもっとも重要な史跡ということから、UNESCO世界遺産としても登録されています。すばらしいモザイク床となっており、フレスコ壁画や貴重な彫刻が見事です。

現在のニーシュ、ナイスは、コンスタンティヌス大帝の生地です。同大帝が何度も滞在したことから、ナイスは立派な宮殿を建て重要な都市に発展しました。郊外には有名なメディアナの遺跡があります。その時代には、大帝の荘園のほか、ローマ貴族の贅沢な別荘地が建ち並んでいました。

古都ユスティニアナ・ブリマは現在、ツァリチングラード、「皇妃の都」と呼ばれています。6世紀にユスティニアヌス一世によって現在のセルビアの南部、ラダン山麓に建てられました。柱廊玄関、パシリカ、公共建造物や個人の邸宅などを含む城跡から古代都市計画がどのようなものであったかがよく伺えます。まさに、ギリシャ・ローマ文明の繁栄を表すものと言えるでしょう。

jp.serbia.travel



# 修道院

～中世精神生活の支え～

文化



ストウデニツァ修道院

多様な建築、彫刻装飾、フレスコ壁画、聖像、写本、工芸品など、中世セルビアの教会と修道院は、セルビアにとって重要な歴史文化遺産です。

顕著な教会建築は、12世紀末から14世紀にかけて建てられた教会に多く見られます。教会の外壁ファサード(正面)や彫刻品における装飾や大きさなどにはロマネスク様式の影響が見られますが、内壁はビザンチン様式のフレスコ壁画で彩られています。ストウデニツァ、パニスカ、デチャニ、グラダツツ、アリリエ、ミレシエバ、ソボチャニ、ジチャなどの町に建つ修道院は、ラシカ派建築の傑作といわれています。セルビア・ビザンチン様式の例としては、「まこと優雅な」と謳われたグラチャニツァ修道院が挙げられ、ミルティン王の時代(1282-1321)に建てられました。

1371年以降の修道院には、別の建築様式が見られます。色の異なる石材と煉瓦を組み合わせた色彩豊かなファサード、装飾が施された壁士などが特徴で、モラバ川沿いの谷で発達した様式なので、モラバ派と呼ばれています。ラバニツァ、ラザリツァ、マナシヤ、リュボスティナ、カレニッチなどの修道院がそれです。

ラシカ派建築の影響は、15世紀に建てられたフルシカ・ゴーラの修道院群にも見られます。この地域では、現在なお16の修道院が活動しており、セルビア正教では有名なヒランダル修道院のあるギリシャの聖山アトスになぞらえて、「セルビアのアトス」とも呼ばれています。フルシカ・ゴーラの修道院のなかには12世紀に創建されたものもありますが、多くは度重なる戦乱で破壊され、18世紀から19世紀にかけて、バロック様式の影響のもとに再建されました。



セルビアは15世紀末から約400年にわたってオスマン・トルコ帝国の支配下におかれます。その間、セルビア正教徒たちは、西モラバ川の美しい峡谷に精神の平安を求めて住むようになります。オブチャル山とカブラル山の間をぬって蛇行する西モラバ川の両岸に、オブチャル・カブラル修道院群として知られる10か所の修道院がひっそりと建っています。

中世の修道院の多くは山深い溪谷のほとりに建てられ、そのフレスコ壁画や聖像は、そこに住んだ聖人、それを建てた王や民衆の歴史とともに、セルビアにおける貴重な文化遺産になっています。

セルビアにおけるUNESCO世界遺産は、次の通りです。

- 1) ストウデニツァ修道院
- 2) スタリ・ラス遺跡とソボチャニ修道院
- 3) コソボ地方\*の中世建造物群  
ペーチ総主教座修道院、リュビシヤ生神女教会、グラチャニツァ修道院、デチャニ修道院
- 4) ローマ遺跡ガムジグラード・ロムリアナ、ガレリウス帝宮殿址
- 5) 中世墓碑ステチュツィの墓所群



\*コソボ・メトヒヤ自治州は現在、国連安全保障理事会決議1244に基づき、国連暫定行政ミッション(UNMTR)の統治下にあります。





# ドナウ川

～美しく青く～

水源から黒海への河口まで、ドナウ川はドイツ、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、クロアチア、セルビア、ルーマニア、ブルガリア、モルダビア、ウクライナの10か国を跨いで流れています。588キロ、全長の五分の一強がセルビアを流れています。

セルビアのドナウ川沿いの代表的な町をあげると、近代的なヨット・ハーバーと有名なビール工場のあるアパティン、カラジヨルジェボ牧場の馬で知られるバーチカ・バランカ、ノビ・サド、スレムスキ・カルロブツィ、ベオグラード、スメデレボ、「銀色の湖」と呼ばれるスレブルノ・イエゼロ湖のあるペリコ・グラディンテ、グランド・キャニオンに次ぐ世界第二の峡谷、ジェルダップ(鉄門峡)の入口にあるゴルバツ、ドーニ・ミラノバツ、鉄門ダムのあるクラドボ、そしてネゴティンなどです。

ノビ・サドの下流にスレムスキ・カルロブツィの町があります。1699年、ヨーロッパ諸国とオスマン帝国の間に和平会談が行われ、世界史の教科書にも出てくるカールヴィッツ条約が結ばれた町です。歴史上、初めて円卓会議が行われたこの町には、「平和の礼拝堂」が建っています。バロック風の町のたたずまい、ローマ帝国以来の伝統を誇る、タイタニック号のワインリストにも載っていた銘柄ワイン「ベルメト」、養蜂博物館などが有名です。

ジェルダップ峡谷はドナウ川が南カルパチアの山あいをえぐってきた峡谷で、ヨーロッパ最大・最長です。その入口に当たるのがゴルバツの町で、岩山にそびえるゴルバツ城が川面に影を落とす姿は、写真家が好んで撮影する風景です。峡谷の兩岸の懸崖は50メートルから800メートルの高さに及びます。その雄大な景観から、この辺りは古くから「鉄の門」と呼ばれ、ローマ帝国が周辺の防衛のために築いた「リメス」という防壁システムを見ることが出来ます。城塞群の数だけでいえば、世界遺産に登録されているドイツのリメスよりも多いとのこと。

ドナウ河がその流域で最も深いのがペリキ・カザン(大釜)の水深90メートル、最も狭いのがマリ・カザン(小釜)の幅150メートルで、水流もいちばん急になります。船上からトラヤヌスの石碑が望めるのもこのあたりです。

昔からこの地域は生活環境が良かったことから、レモンスキ・ビールをはじめ、数多くの集落跡や文化遺産が発見されています。また、ジェルダップ地区は植生が豊かで、1190種を超える植物が見つかり、その多くが天然記念物に指定されています。野生の動物も、ヤマネコ、オオカミ、ジャッカル、トラマズク、クロコウノトリなどの珍種が数多く棲息し、この地域は国立公園に指定されています。

ドナウ観光ポータル  
[www.danube.travel](http://www.danube.travel)

ジェルダップ国立公園  
[www.npdjerdap.org](http://www.npdjerdap.org)





## アクティブ体験

野外アクティビティ



セルビアは、美しい自然のなかで、サイクリングやウォーキング、登山やトレッキング、セーリング、釣り、ラフティングなど、様々な野外アクティビティを満喫することができます。

山好きには登る山を選ぶのに困るほどです。初心者でも楽しめる山としては、ブルジャツ丘陵、フルシカ・ゴラ国立公園、デリブラツカ・ベシチャラの砂原、ブラーニェ市近郊のベスナ・コビラ山、シャバツ市近くのツェール山、パリエボ市から行くディプチバレ高原に臨むマリェン山などがあります。ロードニク山やオプチャル・カブラル峡谷もお勧めです。上級者には、スタラ・プラニナ、スーパ・プラニナ、コパオニク、ゴリア、ターラといった山や、トレシニツァ溪谷がお勧めです。セルビアには登山クラブが150もあり、300人の山岳ガイドが登山愛好家のお手伝いをします。

セルビアを通るドナウ・サイクルロード(DBR)は、ヨーロッパ自転車連盟推奨の全欧自転車道路網のうち、大西洋と黒海を結ぶ長距離ルート、ユーロヴェロ6の一部です。道路標識も整備され、詳細なルートマップもあるので、セルビアのサイクリングツアーは、ドイツやオーストリアといったほかのドナウ沿岸諸国にひけをとりません。

ラフティングもセルビアの魅力のひとつです。スリル満点なドリナ川下りや、ややおだやかなリマ川、イバル川のラフティングなど、近年ますます人気が高まっています。



## 自然再発見

セルビアはバードウォッチングでも人気があります。セルビアに棲息する鳥類は約360種以上と言われており、ワシミズクやワシ・タカの仲間、ツルやサギなどの水辺の鳥が観察できます。詳しいバードガイドと一緒に森や沼沢地を訪れるツアーを是非体験してみてください。





# セルビアの白い屋根



アクティビティ



冬に来られる際は、有名なスキー場、コパオニクやスタラ・プラニナでの銀世界をお楽しみください。

コパオニクは年間の晴れの日数が200日で、積雪日数は160日です。セルビア最大のスキー場で、バルカン地域で最も美しいスキーリゾートともいわれています。初心者向けから上級者向けの難しい急斜面まで、様々なレベルに応じたゲレンデがあります。スノーボード専用のゲレンデや、全長62キロのアルペン競技やノルディック競技用コースもあります。

スタラ・プラニナは「古い山」という意味で、昔はバルカン山脈と呼ばれていました。セルビアのザエチャル市からブルガリアの黒海まで伸びる山並みです。最高峰はバビン・ズーブといい、スキー場もあります。宿泊施設も整っており、民宿や山小屋、高級ホテルもあります。

コパオニクのほとんどのゲレンデではスノーマシンが常備されており、春先までスキーが楽しめます。ゲレンデはロープウェイやリフトで結ばれ、一時間に3万2千人のスキー客を運ぶことができます。夏には、マウンテンバイクのコースが3本あり、自転車を運ぶケーブル鉄道も完備されています。ホテルや山荘、民宿などがゲレンデの近くにあるのも便利です。

セルビア・スキーリゾート  
www.skijalistasrbije.rs

# レトロな鉄道 ～懐かしき思い出～

jp.serbia.travel



20 21

ズラティボルは有名なスバリゾートで、海拔1000メートルほどに位置し、保養地としても知られています。松林をぬける空気の甘さ、鉱泉や澄んだ泉、のどかな小川の流れる、身も心も癒してくれます。冬のズラティボルは、スキー場として、初心者から上級者までスキーを楽しめます。夏は、サイクリングやトレッキングの愛好家で賑わい、様々な文化や芸術イベントが開催されています。近くのシロゴイノ村には、この地方の伝統的な木造家屋の保存状況は素晴らしく、野外博物館になっています。独特な模様で有名な村の女性による手編みセーターもお土産として評判です。

ターラ山岳国立公園は、自然が豊かで、さわやかな気候と多様な動植物に恵まれています。ドリナ川、ザオピネ湖、ペルチャツ湖は、ターラの宝石といわれています。冬のターラは、そり遊び、散歩、初心者向けスキーコースが楽しめます。そのなだらかな斜面は、年間を通じて、散歩や乗馬、ジョギング、サイクリング、狩猟体験、釣り、茸狩りなどに最適です。

モクラ・ゴラ自然公園は、ズラティボルとターラの間、シヤルガン峠の麓にあります。緑の美しいモクラ・ゴラ自然公園は鉱泉やスカカバツ滝でも知られています。この地方にしかない珍しい高山動植物もたくさん見られます。

モクラ・ゴラにある狭軌鉄道、「シヤルガン・エイト鉄道」はとくに人気があります。始発駅から終着駅まで、標高差240メートルを線路が8の字を描いて登っていくので、そう呼ばれています。1925年に開通し、現在も観光列車として運行しています。その近くには、当時の蒸気機関車や客車が展示保存されています。

メチャブニクという丘にドルベングラード(木の町)という民俗村が世界的に有名な映画監督エミル・クストリツァによって建てられました。その村には、映画学校や宿泊施設、レストラン、図書室などがあり、毎年一月にはクステンドルフ国際映画音楽祭が開催されています。



ズラティボル市観光局  
www.zlatibor.org.rs

ドルベングラード・メチャブニク  
www.mecavnik.info



# アグリ・ツーリズム

～違った視点からのセルビア～



スローライフ



セルビアは昔から農業国です。アグリ・ツーリズム体験を通じて、田舎の人たちのおもてなしを是非体験してみてください。田舎暮らし、スローライフ好きにはたまらなく、まるで時間が止まっているような体験ができるでしょう。山陰の農家の民泊での「ジャム作り体験、ボイボディナ地方の大平原にぽつんと建つサラシュと呼ばれる農場での昔ながら暮らし体験など、都会生活の煩わしさを忘れて、違った視点からセルビアを見てみてはいかがでしょうか。

アグリ・ツーリズムは、主に四つの地域で体験できます。ボイボディナ地方の絵に描いたような景色と多民族文化体験、セルビア中部地方のなだらかな丘陵地帯のくつろぎ体験、セルビア西部地方のグルメ堪能体験、セルビア東部地方の自然のなかでの瞑想にふける体験です。

スタラ・プラニナの山麓と近くのピロット市は、羊の放牧とチリムと呼ばれる手織りの絨毯の生産で知られています。何世紀ものあいだ消えることのなかったこの歴史ある毛織製品は、土産物として大変人気があります。



# セルビアの温泉地

健康の泉



22 | 23

セルビア南部のプロロム温泉の近くには、ジャボリャ・パロシュ(デビルタウン)と呼ばれるにふさわしい奇岩群があり、岩山の頂上に石の帽子が載った鋸山のような光景は、一見の価値があります。



セルビアには鉱泉や温泉が1000か所以上あると言われています。現在、使われているのはそのうちの50か所ほどですが、残り950か所以上については、今後温泉地としての開発が期待されています。日本の皆さんもよくご存知の温泉、天然ミネラルガス、泥の医療用としての利用は、このセルビアにも古代ローマ時代からあったと言われています。昔からの温泉利用は、当時の浴場跡、暖房用配管跡、別荘跡などが物語っています。

保養地の多くは山裾にあり、森に囲まれ、夏の猛暑や冬の極端な寒さから護られています。有名な温泉郷としては、ブルニャチカ温泉、コビリャチャ温泉、ブコビチカ温泉、カニジャ温泉、リバルスカ温泉、ソコ温泉、ニーシュカ温泉、アトムスカ温泉などが挙げられます。また、アパティン市近郊のユナコビッチ温泉は、バルカン最大のウェルネスセンターです。





# 伝統料理

料理



# セルビア人の心

24 | 25



セルビアの食事は新鮮野菜がいっぱいで親しみやすく、ベジタリアンでも問題ありません。どの地方にも、どのレストランにも、名物料理があります。

セルビアでは、伝統料理の食前酒としてラキアをお勧めします。ブランデーの一種で、ナシ、プラム、ブドウ、アプリコット、カリンなどの果実で造ります。ラキアは一般的に、前菜と一緒に出されます。前菜には、カイマックと呼ばれるクリームチーズ、羊のチーズ、生ハムやサラミ、豆の煮込みブレブラナツツなどがあります。

川や湖では、有名な魚スープやマス、カワズキ、ナマズなどの主に淡水魚料理が楽しめます。山ではラム、仔牛、豚などをじゃがいもとゆっくり煮込んだ料理が代表的です。平野部では、キャベツ料理、スープやシチュー、地鶏や七面鳥などがお勧めです。新鮮なトマトやキュウリ、パプリカなどのサラダを味わいながらの炭火で焼いた肉やソーセージの香りはグルメにはたまりません。

デザートは地方色豊かです。南部ではトルコ風のクルミ菓子や糖蜜たっぷりのバクラバ、北部では中央ヨーロッパ風のシュトルーデルやクレムビタなど、いかがでしょうか。





# ワイン

セルビアの味と香り



ワイン



ワインルートの標識をたどり、自然の美しさに親しみ、思いがけない史跡や文化遺産に出遭い、土地の習慣や人々の温かい心に触れる、セルビアではそういった味わい深い旅をお楽しみいただけます。

秋になると、ブドウ狩りやワイン祭りが各地で行われます。たとえば、アレクサンドロバツのジュバ収穫祭、ブルシャツの葡萄祭り、スレムスキ・カルロブツィのカルロバツ葡萄狩り、パリッチ湖畔のパリッチ葡萄祭り、トボラのオブレナツ葡萄狩り、ブダルと呼ばれるブドウ畑の見張り番を讀めるイリグのブダル祭などがあります。

セルビアでブドウ栽培が始まったのは千年も昔のことです。中世セルビア王国でも、ブドウ栽培に力を入れていました。近代的なブドウ栽培とワイン醸造は、19世紀のオブレノビッチ王朝の時代に発展し、その伝統は次のカラジョルジェビッチ王朝の時代に引き継がれました。今日、ブドウ栽培はセルビア農業の先進部門となっており、多くの小規模ワイン醸造農家が支えており、古き良き醸造法と最新テクノロジーの組み合わせによって、とても質の高いワインを生産しています。

セルビアの旅は、美味しいワインの旅ともいえるでしょう。ブドウ畑を巡りワインセラーを訪ねるツアーで、醸造家からワイン造りの秘訣を聞き、お土産のワインはお忘れなく。

セルビアにはいくつものワイナリー、50種以上のブドウが栽培されています。よく知られたワイナリーとしては、アレクサンドロバツ、アランジェロバツ、クルシェバツ、スメデレボ、トボラ、バリエボ、パリッチ、ネゴティン、クニャジェバツ、スレムスカ・カメニツァ、スレムスキ・カルロブツィ、ブルシャツなどが代表的です。

# 報奨旅行・観光

～ 想像力の限界へ～



26 | 27



これまで見てきたようにセルビアでは、独特な文化や自然体験することができます。神秘的なデビルタウンのジャボリャ・パロシュ奇石群を訪れたり、伝統セルビア料理作り体験をしたり、ピミナツィウムのローマ都市遺跡で円形劇場を利用したり、発掘チームに加わったりすることもできます。また、故チトー大統領のお召列車ブルートレインをチャーターして、過ぎし日の栄華を偲ぶというのも良いのではないのでしょうか。

都会を遠く離れたの野外アクティビティがお望みなら、荒地をジープで疾走し、急流のラフティングやゴーカートや熱気球飛行を体験し、野生動物の観察や壮麗な景観のフォトサファリに参加するといった観光の仕方もあります。







# 会議観光

MICE



セルビアはヨーロッパの中心にあり、欧州主要都市や世界の大都市との航空便のアクセスが良く、また通貨交換レートも良いです。皆さまの会社や企業様の特別な必要にマッチした研修・セミナー、社員旅行、国際会議、展示会、などセルビアでは会議観光も可能です。

セルビアはヨーロッパのMICE最大成長国と言われています。セルビア・コンベンション・ビューローが中心となり各企業パートナーと協力して、会議観光のための最新コミュニケーションツールの利用ができます。是非会議観光としてもセルビアへお越しください。セルビア・コンベンション・ビューローは皆さまのイベント企画を完全アシストいたします。

ベオグラードは2015年、イベント数で、会議開催地の世界ランキング50位以内に入りました(ICCA調査)。ベオグラードの国際会議場サブ・センターは、空港からわずか15分の場所で、東南ヨーロッパでは最大級の大きさです。メインホールは最大4000人収容ができ、これまで諸国間首脳会議やIMF世銀総会など、重要な国際会議の会場として使われました。すぐ近くには、もう一つ多目的会議場ベルエキスポセンターがあり、こちらは3000人が収容可能です。

またベオグラード見本市会場には、展示会や会議のための多目的のホールが多数あり、バルカン地域有数の会議開催場所となっています。ベオグラードには、会議場の近くに、三ツ星から五ツ星まで、どのレベルでも目的に合わせたホテルをお選びいただけます。



## その他会議観光のお勧めスポット

ボイボディナ地方では、ノビ・サドにあるマスター・コングレスセンターを会議観光にお勧めします。近くにはホテルも各種用意してあります。北に行くと、スポティツァ市にも快適なホテルと会議施設があり、近くにはバリッチ湖という憩いの場もあります。

このように、セルビアの主な会議観光地としては、ベオグラード、ノビ・サド、スポティツァといった都市のほか、ズラティボルやコパオニクといった山間部のリゾート地もあり、様々な娯楽プログラムも併せていかがでしょうか。これらの会議観光地では、会議前後のツアー企画を含め、ご提案や必要なサポートになんでもご対応いたします。

セルビア・コンベンション・ビューロー  
[www.scb.travel](http://www.scb.travel)







# イベント

EVENT



セルビアには、音楽祭、演劇祭、映画祭、文学祭、スポーツ大会、カーニバルなどのさまざまな趣向をこらしたイベントがこの国のどこかの村や町で年間を通じてたくさん開催されており、セルビア独特の創造性がよく表れていると言って良いでしょう。

ラヤッツの草刈祭り、コセリッチの羊飼いの祭り、クチェボのホモリエ・モチーフ、ワイン産地の葡萄祭り、ドナウ川沿岸各地の魚スープ・コンテストやトマト祭りなど、様々な行事があります。チャーチャク市近くの小村グーチャで毎年八月に開催されるドラガチェボ・トランペット・フェスティバルは、バルカン地域最大で、開催期間中、100万人近くの聴衆がブラスバンドの迫力あふれる演奏を楽しみに訪れます。

夏の音楽祭シーズンは、ノビ・サドのペトロバラディン城で開かれるEXITロック・フェスティバルから始まります。このバルカン地域最大のポップ音楽祭には世界中から毎年15万人が訪れ、イギリスのグラストンベリーのフェスティバルに次ぐ規模を誇っています。

ベオグラードやクラグエバツ、パリエボ、ニーシュ、コソプスカ・ミトロビツァなどの町では国際ジャズ・フェスティバルが開催されています。クラシック音楽の分野では、「BEMUS」の名で知られているベオグラード音楽祭が最も古くで人気があります。ネゴティンの町には、セルビアの大作作曲家モクラニヤツを記念する伝統的な合唱コンクールが開催され、ニーシュでは合唱祭が開かれています。

美術関係のイベントとしては、ベオグラードで十月に行われる美術展覧会が有名で、50年の伝統があり、セルビア現代美術の趨勢を存分に楽しめます。最近では、ミキサー・フェスティバ



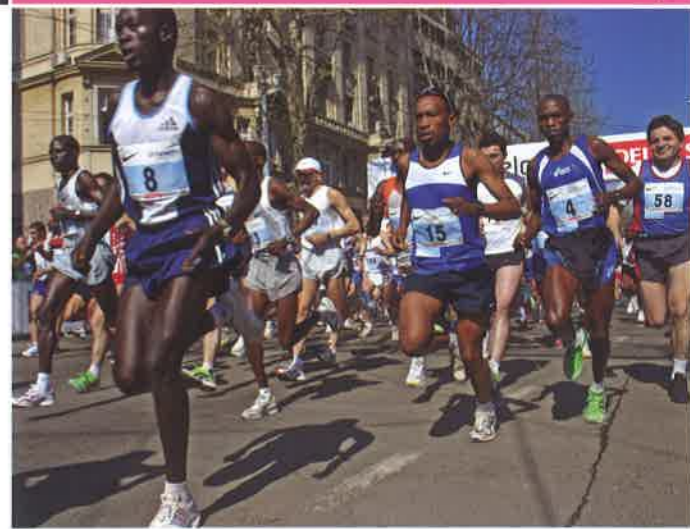
みんなが楽しめる

30 | 31

ルとかベオグラード・デザイン週間といったイベントも人気上昇中です。

セルビア映画は世界的にも有名で、ベオグラード国際映画祭「FEST」が毎年初めに開催されています。スポティツァ市近くのパリッチ湖畔でも、定評あるヨーロッパ映画祭が行われ、ノビ・サド市では野外映画祭「シネマシティー」が毎年開催されています。

スポーツはセルビア人の生活の一部となっており、国際的に知られているスポーツ選手も少なくありません。セルビアで開催される主なスポーツ・イベントとしては、ベオグラード・マラソン、ツール・ド・セルビア国際自転車ロードレース、リュビチェボ馬術競技大会、全国各地の河川で行われるレガッタなどがあります。その他各種競技のバルカン地域選手権やヨーロッパ選手権、世界選手権などの大会も、セルビアでは毎年のように開催されています。



ドラガチェボ・トランペット・フェスティバル  
[www.cksguca.rs](http://www.cksguca.rs)

EXITロック・フェスティバル  
[www.exitfest.org](http://www.exitfest.org)

ニーシュビル・ジャズ・フェスティバル  
[www.nisville.com](http://www.nisville.com)

十月サロン  
[www.oktobarskison.org](http://www.oktobarskison.org)

ミキサー・フェスティバル  
[www.festival.mikser.rs](http://www.festival.mikser.rs)

ベオグラード・マラソン  
[www.bgdmarathon.org](http://www.bgdmarathon.org)



観光案内所  
& 土産物屋  
セルビア政府観光局

In the City  
Makedonska 22, 11000 Belgrade  
Tel.: +381 11 6557127  
E-Mail: info@serbia.travel

Trg Republike 5, 11000 Belgrade  
Tel.: +381 11 3282 712  
E-Mail: info@serbia.travel

Airport  
Tel.: +381 11 2097 828  
E-Mail:  
info-aerodrom@serbia.travel



INFO



お役立ち情報

**ビザ**  
日本国民はビザなしで90日以内の滞在が許可されています。

**時間**  
日本とは7時間違います(日本の午前10:00は、こちらの午前3:00)。

**電気**  
欧州大陸標準220V、50Hz。

**AIR SERBIA 航空**  
Tel.: +381-11-3112123  
www.airserbia.com

**ベオグラード・ニコラ・テスラ空港**  
Tel.: +381-11-2094444  
www.beg.aero

**セルビア鉄道**  
Tel.: +381-11-3602899  
www.zeleznicesrbije.com

**ベオグラード中央バス・ステーションBAS**  
Tel.: +381-11-2627146  
www.bas.rs

**セルビア自動車協会 (AMSS)**  
www.amss.org.rs

**通貨単位**  
ディナール (Dinar) です。両替は銀行、両替所、ATMなどでできます。  
クレジットカード  
主なクレジットカードは全国各地の大半のホテル、レストラン、旅行会社、ガソリンスタンド、商店で利用できます。

**消費税**  
消費税率は、大半の商品については20%ですが、一部の商品は、10%の場合もあります。

**電話**  
セルビアの国番号は、+381です。  
市外局番 ベオグラード市(0)11、ノビ・サド市(0)21、ニーシュ市(0)18となっています。

**セルビアからの国際電話**  
最初に00、次いで国番号。日本へは0081です。

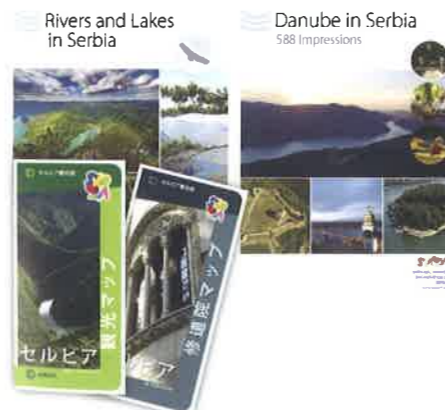
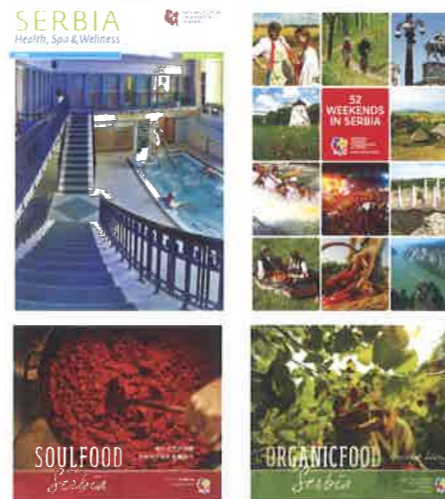
**緊急電話番号**  
警察192  
消防193  
救急194  
ロードサービス1987

**携帯電話会社**  
mt:s Telekom Srbija  
www.mts.telekom.rs  
Telenor  
www.telenor.rs  
Vip mobile  
www.vipmobile.rs

**祝日**  
新年 1月1日、2日  
正教降誕祭 1月7日  
国家記念日 2月15日、16日  
正教聖金曜日 移動祝日  
正教復活祭 移動祝日、日曜日、月曜日  
メーデー 5月1日、2日  
休戦記念日 11月11日

セルビアをさらに知るために

jp.serbia.travelも是非ご覧ください。

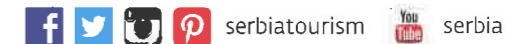


ご注意

本出版物にある住所、電話番号、ウェブサイトなどの一部データは予期なく変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

IMPRESSUM

発行元  
セルビア政府観光局  
Čika Ljubina 8, 11000 Belgrade  
Phone: + 381-11-6557100  
Fax: + 381-11-2626767  
Email: office@serbia.travel  
jp.serbia.travel



発行 Marija Labović  
編集 Dejan Crnomarković  
文 Vladislava Vojnović, Dejan Crnomarković  
訳 Hiroši Jamasaki Vukelić  
デザイン Marijana Markoska  
日本語版監修 Takahiko Makino (JICA専門家)  
地図制作 Merkur-SV, Belgrade  
地図コンサルタント Olgica Miljković  
写真 Dragan Bosnić, Dragoljub Zamurović, Branko Jovanović, Vladimir Čorović, Nebojša Babić, Nemanja Jovanov, Jovana Đukić, Svetlana Dingarac, Bobiša Marinović, Miroslav Zarić, Dragan Vildović, Martin Candir, Mikser Festival – Luka Knežević Strika, National Museum of Serbia, EXIT foto team, hiishii 7 Summits by Bike, Nišville, Metropol Palace Hotel Belgrade – Black Box, Hotel Izvor Arandelovac, Medija Centar Belgrade archive, Master Congress Centre Novi Sad archive, Gallery of Naive Art Kovačica, Family Sport (Srđan Stevanović, Peda Milosavljević), NTOS archive  
印刷 Službeni glasnik, Belgrade  
2016年 第2刷発行  
発行部数 1,000部  
協力: 独立行政法人国際協力機構 (JICA)  
ISBN 978-86-6005-476-2  
©セルビア政府観光局

CIP - Каталогизacija y publikaciji -  
Народна библиотека Србије, Београд  
338.48(036)  
VOJNOVIĆ, Vladislava, 1965-  
Srbija : Život u ritmu srca / [Vladislava Vojnović, Dejan Crnomarković ;  
prevodilac Hiroši Jamasaki Vukelić ; fotografije Dragan Bosnić ... [et  
al.] . - 2. izd. - Belgrade : National Tourism Organisation of Serbia, 2016  
(Belgrade : Službeni glasnik) . - 33 str. : fotogr. ; 30 cm  
Tekst na jap. jeziku i pismu . - Podatak o autorima preuzet iz kolofona . -  
Tiraž 1.000.  
ISBN 978-86-6005-476-2  
1. Crnomarković, Dejan, 1978- [аутор]  
а) Србија - Водичи  
COBISS SR-ID 225212428